

あそび場づくりは
まちづくり



まちのこ団

machinokodan

人は、 まちに育まれる 大切なまちの子ども

一般社団法人まちのこ団



まちのこ団について

MISSION

子どもの原体験を豊かにする

原体験とは、子どもの時期に体験するすべてのこと。五感で感じる事、喜怒哀楽の感情、何かを見て知ることや、誰かに会って言葉を交わすこと、共感すること、失敗体験や成功体験など、あらゆる体験のこと。原体験が多様であることが子どもの人格や個性を豊かにすると考えています。

VISION

子どもや若者が自信を持って生きる社会をデザインする

「自信」とは、自分自身を信じられる力のこと。その力は主に「自分を知る＝“自分らしさ”がわかる」ことで少しずつ培われていきます。多様な体験や人との関わりなどを通じて、自分自身の「できること・できないこと」「得意なこと・苦手なこと」「慈しみ・愛おしむ心」「心の揺らぎ」「憧れ」「価値観・人生観」などが原体験として少しずつ積み重なってくことで、“自分らしさ”を知り、それが「自信」につながると考えています。

VALUE

アソビニケーション

アソビニケーションとは、「あそび×コミュニケーション」のことで、その手法を用いたコミュニティづくり、まちづくりを行うことです。言語や人種の違い、年齢、性別、障がい等を問わずに誰もが関われる「世界一ハードルの低いコミュニケーション」ツールをご提供しています。

団長メッセージ

“人は、まちに育まれる大切なまちの子ども”

ある下町の、自分のまちと祭りとお酒をこよなく愛していた、粋なおっちゃんが遺してくれた言葉。

人は、家だけでも、学校や会社だけでもなく、まちで育つ。

まちにはいろんな場所があって、過去と今と未来があって、そこにはいろんな人がいる。目の前の空き地や近所の駄菓子屋、田んぼや神社の境内、友だちの家、校庭、図書館、商店街の路地、公園、手づくりの秘密基地、通学路の土手や河原、あるいは海岸…あらゆる場所がまちを知る、あそび場。

あそび場は、ワクワクの場所。

自分らしくいられる場所。

仲間に出会える場所。

大人には秘密の場所。

学びの場所。

繋がりが先祖の知恵を知る場所。

ぼーっとしてられる場所。

静かな場所。

元気が出る場所。

誰かと何かに出会える場所。

規範やルール、意味づけが重要視され、お互いの目が良くも悪くも行き届きやすくなった現代社会は、あそび場のようなぼんやりとした余白を持つことが難しくなり、もしかしたらそういった場は失われつつあるのかもしれないと感じます。

昔みたいがいい、と言いたいわけではなく、私たちの考える「まちで育つ」というものは、一人ひとりが多様な価値観や環境の中で育ち、自分らしさを大切に、お互いの違いを尊重し、多様性を受け入れる社会を築くこと。

人々がお互いを尊重し、認め合い、支え合いながら共に生きることが出来る社会を目指すことです。

そのような社会を実現するために、私たちは「まちのこ団」として様々な活動を通じて取り組んでいます。

私たちの実践していることはまだとても小さいものですが、様々な分野・立場の方々とプロセスを共有し、協働・共創できることが魅力であり、強みです。あらゆる垣根を越える協力は今後ますます重要になってきます。そしてその活動を持続的なモデルとして確立することも欠かせません。それらが、まちと“まちの子ども”である私たちが持続的で豊かに生きられる社会を実現するための一助になると信じ、これからも歩んでいきたいと思えます。

曾田大和

沿革

- 2011年 まちづくり系学生団体『まちのこ』結成
- 2012年 同団体で東京都千代田区淡路町二丁目再開発計画に参画（～2014年）
- 2015年 チルリンピック構想（※1）を発起し、同事業が東京都千代田区まちづくり助成制度に選出（～2016年まで実施）
- 2019年 茨城県に拠点を移し、活動名を『まちのこ団』として再出発
同年「茨城県北ローカルベンチャースクール・ビジネスプレゼンテーション2019」において『コミュニティレイバス事業』で「優秀賞」受賞（※2）
- 2020年 クラウドファンディングにて資金調達達成
茨城県北起業型地域おこし協力隊委嘱（～23年）
- 2022年 法人格取得
- 2023年 「Business Challenge Program（県北BCP）」にて「優秀賞」と「審査員特別賞」ダブル受賞（※3）

※1 チルリンピック構想：「チルリンピック」とは、チルドレンとオリンピックを合わせた造語で、「世界中の子どもたちを繋げるあそびの祭典」。言語や宗教、国境などを越えたあそびのコミュニケーション＝アソビニケーションについての実証実験的イベント。学生時代からお世話になっていた東京・神田にてご縁をいただき開催。

※2 茨城県北ローカルベンチャースクール
主催：茨城県政策企画部県北振興局 運営受託者：NPO法人まちづくり GIFT

※3 Business Challenge Program（県北BCP）
主催：茨城県政策企画部県北振興局 運営受託者：株式会社しびっくばわー



コミュニティプレイバス —移動式あそび場—事業

プレイバスとは、まち中（じゅう）を居場所に変えるプロジェクト。



プレイバス (playbus)

車などに数十種類のあそび素材や道具、仕掛けを積み込み、屋内外問わずどこへでも出向いてあそび場・居場所を生み出すプロジェクトのこと。場づくりだけでなく、あそびの環境をつくる専門人材であるプレイワーカーが、あそびを通じた子どもの生きる力を育み、そこへ集う人々同士の顔の見える関係づくりをサポート。



出動先紹介

- 商店街 | 茨城県日立市、ひたちなか市、大子町、千葉県柏市、東京都多摩市 など
- 大学 | 城西国際大学 (千葉県東金市)
- 小学校 | つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校 など
- スポーツ | 水戸ホーリーホック(水戸市)、筑波サーキット(下妻市)
- 宿泊施設 | ホテルレイクビュー水戸 (水戸市)
- 商業施設 | 神田スクエア (東京都千代田区)、thegreen (千葉県印西市)
- イベント | つくばクラフトピアフェスト (つくば市) など
- 公園系 | 国営ひたち海浜公園 (ひたちなか市)、平塚市総合公園 (神奈川県平塚市)
- 行政系 | 茨城県、日立市、水戸市 など



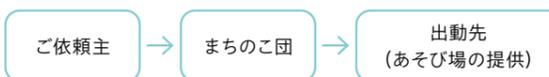
イバラキくん

ぼくはイバラキ!あそび場の妖精だよ!プレイバス発祥のドイツでは、あそび場には、人々をわくわくした気持ちにさせる妖精がいるといわれているんだけど、それはぼくたちのイタズラなんだ。



ビジネスモデル

出動までのイメージ



ご依頼の動機

- イベントなどで子ども・子育て世代の満足度を上げたい
- 地域コミュニティを生むきっかけがほしい
- セミナー等に子育て中のパパママも参加しやすきたい
- 子育て世代のマーケット調査などをしたい
- 子育て世代に來場してほしい

対応可能規模 (実績値)

[人数] ~2,000名程度
 [範囲] 1畳~サッカーコート程度。屋内外問いません。
 [主な対象] 乳幼児から小学生程度+保護者。国籍・障がいの有無問いません。

料金

基本料金7万円(税別) + ご依頼内容により変動
 [内訳] プレイバス出動費、プレイワーカー1名、基本調査費

- 市民団体などはこの限りではありません。
- 条件等により柔軟に対応していますので、お気軽にお問い合わせください。





拠点式場づくり —まちのこベース—事業

まちのこベースとは、まち中（なか）を居場所に変えるプロジェクト。



まちのこベース (machinoko base)

子ども・子育て世代を中心にした居場所。
子どもの居心地の良さを軸に、そこに関わる人々のやりたいに寄り添い、助け合い、
支え合う地域のゆるいコミュニティの場。まちのこベースひたちなか（ひたちなか市
受託事業・自主運営型）、まちのこベースだいが（自主運営型2021年～23年末まで）
の企画運営。（2024年4月時点）

まちのこベースひたちなか



放課後の子どもの居場所、私設図書館（まちライブラリー）、小さな駄菓子屋さん、フリーマーケット、子ども食堂などを実施中。



まちのこベースだいが



季節イベント、地域のお祭りとの連携、移動式プログラミング教室などを実施。また大子町初のまちライブラリーを開設（当ベースは24年に事業継承済み）。



企画運営まちづくり事業

様々な角度からまちづくりを進めるプロジェクト。

地域コーディネート



地元産材を活用した商品開発プロジェクトのコーディネート。

.....
|実施事例|大子町
大子町唯一の県立高校の学生とまちを繋ぎ、地域課題の中から魅力を再発見し、アイデアを実現するまでをテーマにした地域連携プロジェクトを企画運営。

防災講座



実際の経験と保有する資格〔(防災士、子どもの救命救急法 EFR-CFC (国際資格))、狩猟免許、予備自衛官〕を活用し、活かした防災知識を提供するセミナー等の実施。

.....
|実施事例|ひたちなか市
ひたちなか市ボランティアスクールにて、「もしも」のために「いつも備える」「あそび×防災」のセミナーを実施。

移動式子ども食堂



移動式の強みを活かし、主に子ども食堂が実施されていないエリア・地域へ出向いてあそび場・食堂を展開。

.....
|実施事例|ひたちなか市、大子町

こどものまち・いばらきプロジェクト



ドイツ発祥の体験型まちづくりイベント「ミニ・ミュンヘン」の理念と手法を取り入れた子どもの、子どもによる、子どものためのまちづくりイベント「こどものまち・いばらき」を企画運営。

.....
|実施事例|こどものまち・ひたち、こどものまち・あじがうら

Living Street Project



「みち」をまちのリビングルームのように居心地の良い空間にすることで賑わいを生み出す取り組み。企画を通して、人が歩きたくなるような道や居心地の良いまちづくりを提案。

.....
|実施事例| Living Street Hitachi
日立駅前の「パティオモール商店街」にて、道の上にイスやハンモック、こたつ、あそび場などを設置。子どもからお年寄りまで思い思いに過ごせる空間づくりを実施。

自然体験



親子ワークショップのニーズなどに応じ、茨城の里山・里浜を探検するプログラム。

商品開発



オリジナルグッズやコラボ商品の企画・販売。



ご縁をいただいた皆さま

あそびは子どもの心と身体を育てます。あそびは仲間を集めます。子ども集団の中で、子ども達は多くを学びます。ルールが生まれ、工夫し、そして他者を思いやるのです。そんな時の大人の役割は、子どもの力を信じて、見守り、待つこと。「まちのご団」は、いろんな所でそれを実践してきました。そして、その思いは私たち「ひたち親子の広場」と同じです。これからも共に協力して、子どもが主役の活動を作っていきます。



森戸 裕子
NPO 法人ひたち親子の広場代表

人には無限の可能性がある。その最たるは、地域の子もたちだと思います。子どもたちに寄り添い続けてきたまちのご団の活動は本当に素晴らしいと感じています。同じ目線で丁寧に広げてきたこの活動。さらに社会をより豊かに変えるパワーを増やしていくことを祈念しています。



堀下 恭平
株式会社しびっくぱわー代表取締役社長

まちのご団のプレゼンで「あそびが足りない」と聞いて、ハッとさせられました。私自身もそういう子ども時代だったと思います。今の子どもはもちろん、親となる大人もあそびが足りないかもしれません。苦しいコロナ禍でも活動を続け、まちのご団はこれからもっと必要となり、活躍の場を広げていくと思います。まちのご団、そして地域の子もたちの未来を応援しています！



若松 佑樹
株式会社えぼく代表取締役

“まちのご団”を初めて知ったのは10年くらい前です。その“まちのご団”が茨城で活動をしてあそび場を増やしているという話を聞きました。最初に思ったのは茨城県の宝になるんだらうということ。実際あそびに行くと地元の人に愛され、子どもに愛されている“まちのご団”を見る事ができました。団長と子どもの笑顔に溢れる“まちのご団”これからの活動も期待しています。



早川 大
株式会社 kipuka 代表取締役
防災・災害支援団体 bousaring 代表

まちのご団には僕ら「イバフォルニア・プロジェクト」の子も担当として、主にビーチマーケットなどにおいて、子どもたちの居場所を作ってくれています。元々親子連れの多いイベントですが、子どもを安全にあそばせておける場所がなかったの、とても助かっていますし、集客にも貢献してくれています。まちのご団の活動は社会に必要なことだと実感している一人です。これからも活動を継続して行ってください！行け！団長！！

小池 伸秋
イバフォルニア・プロジェクト事務局



アイデアに価値はない！社会をより良くするために行動し続けてください。

齋藤 潤一
一般財団法人こゆ地域づくり推進機構代表理事
AGRIST株式会社代表取締役CEO

「プレイパークひたちなか」でいつもお世話になっています。プレイバスから飛び出してくる道具たちも魅力的ですが、団長やお姉さん、お兄さんたちが素敵です。子どもたちと一緒にあそんだりお話ししたり…目線が近いところで一緒に過ごすことがとても大事な…とあらためて感じさせていただいています。まちのご団の素敵な活動がこれからもずっとずっと続いていきますように。



中野 弥生
NPO 法人たまり場ぼぼ副理事長

この取組みが多様な方々の参画・共創によって、より多くの地域へ、多くの子どもたちのもとへ届く未来を願っています。ぜひ九州でも実現したいです！



森 佑介
一般社団法人ハチハチ 代表理事

人はあそぶことで幸せになり、まちはあそぶことで自由になり、地球はあそぶことで平和になる！団長と仲間たちの一歩一歩がそれぞれを実現していく！1滴1滴もたまれば池となり、大きな川になる！共に、遊びあふれる世界をつくらうぜよ！



星野 諭
移動式あそび場全国ネットワーク代表

子どもは、誰かと体験を共有すること、その体験を通して「嬉しい」「悲しい」といった感情を共有すること、その積み重ねの中で「自分はここにいていいんだ」「自分の気持ちを大切にしていんだ」という感覚が持てるようになっていきます。人の暮らしが便利で、合理的になる一方で、その代償として子どもの生活のあり様が大きく変容するそんな時代だからこそ、「あそび」という子どもたちの日常を豊かにするまちのご団の活動を心から応援しています！



高 典道
認定 NPO 法人 PIECES 理事
ソーシャルワーカー

主なお取引先

行政・自治体系

茨城県、笠間市、水戸市、ひたちなか市、日立市、茨城県県北生涯学習センター、茨城県水戸生涯学習センター、社会福祉法人ひたちなか市社会福祉協議会、社会福祉法人大子町社会福祉協議会

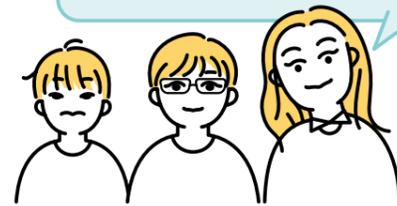
民間企業・団体系

公益財団法人日立地区産業支援センター (HIS)、株式会社しびっくぱわー、株式会社日立リアルエステートパートナーズ、株式会社ミカミ、株式会社イチケン、株式会社えぼく、株式会社共進舎 kusukusu、NPO 法人たまり場ぼぼ、NPO 法人ひたち親子の広場、遊びでまちづくりする準備室、ホテルレイクビュー水戸、諏訪名店街、らっしゃい・でえご隊、ひたちなかまちづくり株式会社、一般社団法人桐生市青年会議所、移動式あそび場全国ネットワーク

※敬称略・順不同

まちのご紹介

活動をしていると、いろんな人たち、いろんな子どもたちと一緒に楽しむことができ、学ぶこと、経験することができます!!そして、たくさん「ありがとう」と「笑顔」と「幸せ」をもらうことができます!!家族そろって同じ活動をし一緒に体験、経験させてくれる《まちのご団》最高です!!!



小泉 親子
子どもまちのご団員

まちのご団は、子どもが苦手だった私の子ども好きになった理由です。以前の私は子どものイメージを勝手に決めつけていました。まちのご団に初めて参加した時にあそび場で見たものは、小さなキラキラした笑顔の宝箱。今ではそれを見るたびに、「入ってよかったなあ」って思います!



ひーさん
高校生



まな
大学生

まちのご団で活動する私のおすすめは、地域の子もたちとの出会いです!まちのご団が大切にしている「自分らしさ」をスタッフも子どもたちも受け入れているからこそその居心地の良さがあります。自分が好きなことや得意なことを活かして子どもたちと関わることができるとても素敵な活動です!



サトウミキ
ライター



岡部 夏実
デザイナー

まちのご団は色々なことを経験させてくれる自由さを持ちつつ、日常に寄り添うような自然な雰囲気をもった場所です。これからも応援しております!



あそび場づくりのボランティアは、自由にあそぶ子どもたちの笑顔や元気な声から力をもらえる素敵な活動です。これからも積極的に関わっていききたいと思います!

りーくん
社会人

出産を機に子どもが自由に活動できる場の少なさ、母親の孤独を課題と感じ参加させていただいています。子どもたちの自由な発想に、毎回驚きと発見がいっぱいです。あそびを届けることを通じて、様々な地域のまちづくりについても知ることができます。広くアイデアを受け入れてくれる団長さんなので、得意や好きを活かして楽しく活動できると思います!!



りみさん
社会人



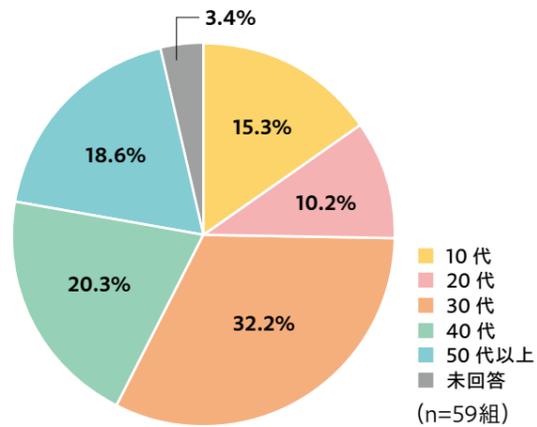
いずみづ
グラフィッカー



データで見るまちのこ団

あそび場の滞在者調査

年代別滞在者割合（茨城県日立市）



平均滞在時間（千葉県印西市）

平均 40分

(商業施設の場合：n=100組、3~4時間いる組も7組)

リピート率（茨城県ひたちなか市）

62.7%

(3か月に1回出動の商店街イベント：59組中37組)

まちのこ団が解決したい社会課題のデータ

日本の孤独を感じる子どもの割合

29.8%

対象国平均：7.4%
2位：10.3%（ポーランド）
(経済先進国21ヶ国対象)

出典：ユニセフ・イノチェンティ研究所

日本の自分が価値のある人間だと思う子どもの割合

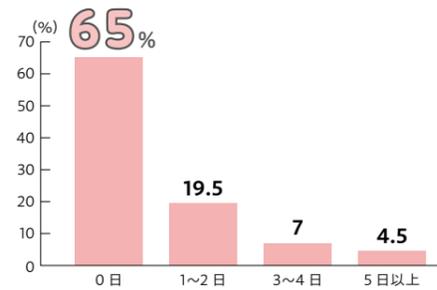
7.5%

米国57.2%
中国42.2%
韓国20.2%
(日米中韓の高校生7233人)

出典：日本青少年研究所

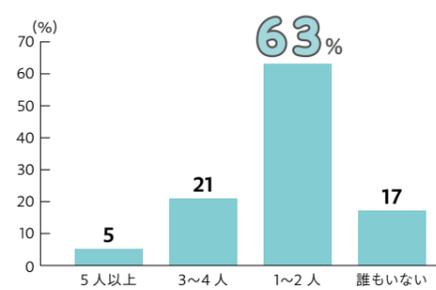
外あそびの日数

(※小学生、コロナ前)



友だちの数

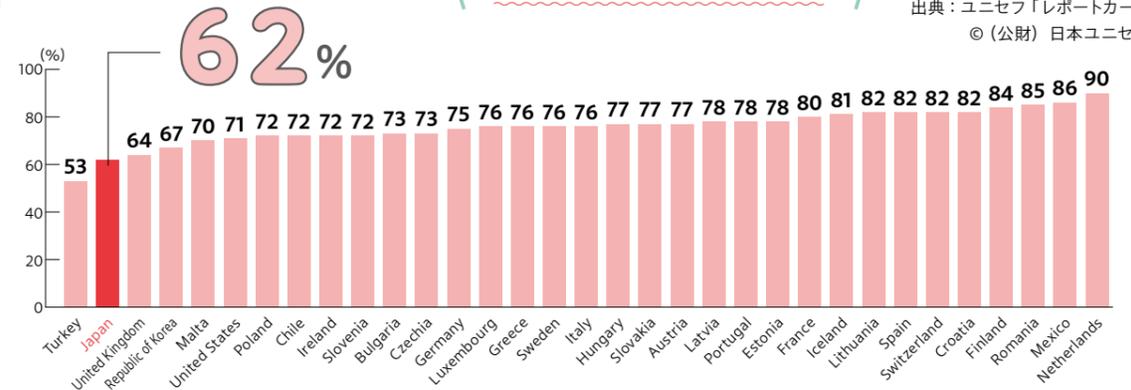
(※小学生、コロナ前)



政令指定都市（千葉県）、地方都市（宮城県）、農村部（群馬県）平均

参考：日本学術会議子どもの育成環境分科会報告公開シンポジウム、千葉大学大学院園芸学研究所 木下勇研究室資料、一般社団法人プレーワーカーズ

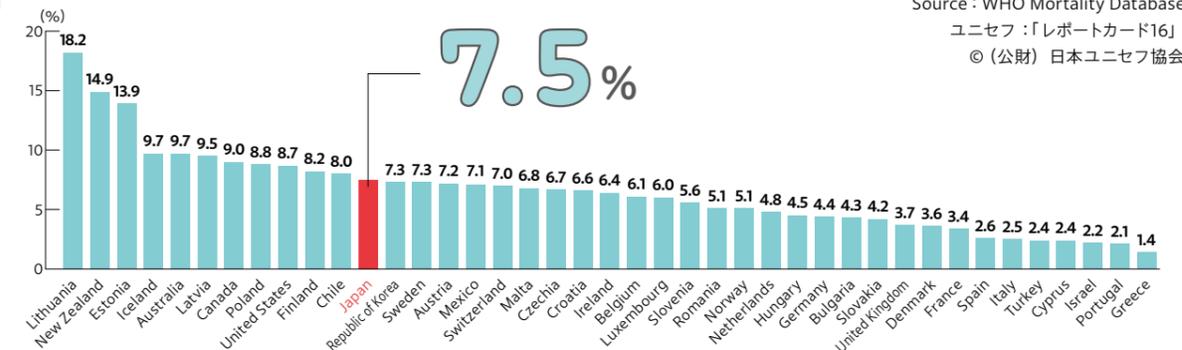
生活満足度



日本の子どもの精神的幸福度は
38ヶ国中37位で世界最低

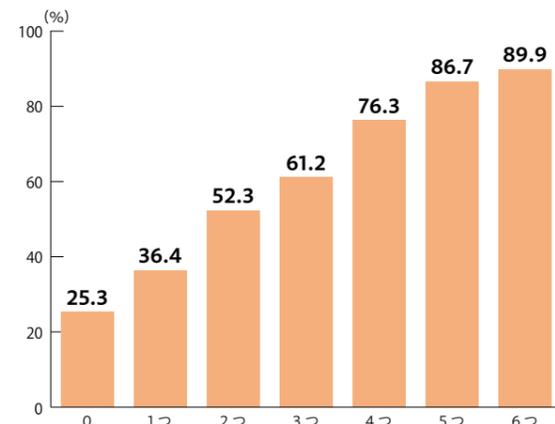
Source: PISA, 2018
出典：ユニセフ「レポートカード16」
© (公財) 日本ユニセフ協会

自殺率（15～19歳）



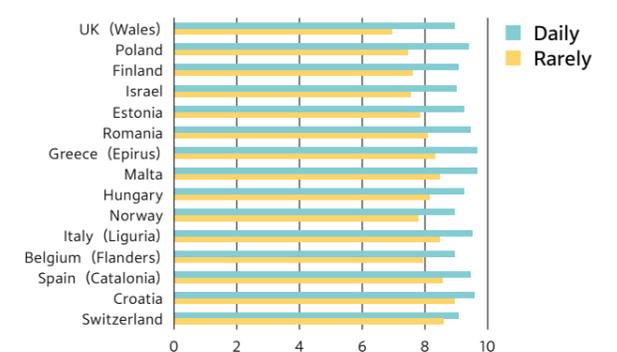
Source: WHO Mortality Database
ユニセフ「レポートカード16」
© (公財) 日本ユニセフ協会

居場所の数と生活の充実度の割合



出典：内閣府『平成29年度版子供・若者白書』

より多く外であそぶ子どもの方が幸せ



外あそびの機会は子どもの幸福度に関係します。日本の都市部にはあまりあそぶ場所がありませんが、都市計画の中で何を優先するか、子どものあたりまえの活動であるあそびをどう位置づけるのか、ということでもある。—レポートより

出典：ユニセフ「レポートカード16」
© (公財) 日本ユニセフ協会

ご連絡先



machinokodan

Instagram

@machinoko.jc

Twitter

@machinokodan

e-mail

machinokodan@gmail.com

あそび場は
社会のインフラ



一般社団法人まちのこ団